

第4期大阪府がん対策推進計画 P D C A 進捗管理について

令和6年度大阪府がん対策推進委員会
第2回小児・AYA世代のがん対策部会

大阪府の取り組み（第4期大阪府がん対策推進計画）

＜基本理念＞

がんになっても適切な医療を受けられ、安心して暮らせる社会の構築

＜全体目標＞

がん死亡率の減少

がんり患率の減少

がん生存率の向上

がん患者・家族の生活の質の維持

	【全体目標】	策定時の値	現状値	2029年度目標値
1	大阪府のがん年齢調整死亡率（75歳未満） 【人口動態統計を用いて大阪国際がんセンター がん対策センター作成】	132.2人 <人口10万対>【令和3（2021）年】	127.5人 <人口10万対>【令和4（2023）年】	減少
2	大阪府のがん年齢調整り患率（75歳未満、進行がん） 【大阪府がん登録データを用いて大阪国際がんセンター がん対策センター作成】	268.4人 <人口10万対>【令和元（2019）年】	251.9人 <人口10万対>【令和2（2020）年】	減少

＜基本的な取組み＞

(1)がんの予防・早期発見

- がんの予防
(たばこ対策等)
- 肝炎肝がん対策の推進
- がん検診によるがんの早期発見

(2)がん医療の充実

- 医療提供体制の充実
- 小児・A Y A 世代のがん・高齢者のがん・希少がん等の対策
- 高度・専門的な医療の活用
- 緩和ケアの推進

(3)患者支援の充実

- がん患者の相談支援
- がん患者への情報提供
- がん患者等の社会的な課題への対応

(4)データの基盤整備・活用

○がん登録の精度向上

○がん登録等のデータ利活用

(5)がん対策を社会全体で進める環境づくり

- 社会全体での機運づくり○大阪府がん対策基金
- がん患者会等との連携促進○がん教育、がんに関する知識の普及啓発

令和6年度における基本的な取組みは、概ね予定どおり実施している

2 がん医療の充実、3 患者支援の充実

2 (2) 小児・AYA世代のがん・高齢者のがん・希少がんの対策 計画P 72

3 (3) がん患者等の社会的な課題への対策 計画P 76-78

《第4期大阪府がん対策推進計画におけるモニタリング指標》

	モニタリング指標	計画策定時の値	現状値
1	小児（0歳～14歳）における5年実測生存率【大阪府がん登録】	80.9% 【平成22（2010）年～平成26（2014）年】	2028年度に算出
2	AYA世代（15歳～29歳）における5年実測生存率【大阪府がん登録】	82.9% 【平成22（2010）年～平成26（2014）年】	2028年度に算出
3	AYA世代（30歳～39歳）における5年実測生存率【大阪府がん登録】	82.5% 【平成22（2010）年～平成26（2014）年】	2028年度に算出
4	長期フォローアップについて説明を受けた人の割合【小児がんニーズ調査】	81.1% 【令和4（2022）年度】	91.3% 【令和5（2023）年度】
5	指定医療機関における妊よう性温存治療の実施件数【大阪府調べ】	262件 【令和4（2022）年度】	251件 【令和5（2023）年度】
6	指定医療機関における妊よう性温存治療のカウンセリング件数【大阪府調べ】	278件 【令和4（2022）年度】	185件 【令和5（2023）年度】

現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆小児・AYA世代のがんについては、それぞれの特性に応じた対策が必要。 ◆小児・AYA世代のがんは、幅広いライフステージに応じた多様なニーズに沿った支援が求められている。 ◆妊よう性では、がん・生殖医療に関する情報・相談支援の提供体制が求められている。
-------	--

本年度の取組	<p>《小児・AYA世代のがん》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■小児がん治療経験者長期フォローアップ支援事業の実施。 【照会元医療機関：9医療機関（小児がん拠点病院・小児がん連携病院）、 検査実施件数：4件（R6.12末時点）】 ■小児がん患者を対象とした重粒子線治療の助成制度を運用。 <p>《小児・AYA世代における療養環境への支援》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■小児がん・AYA世代のがん経験者の就労支援について、労働関係機関と連携した出張相談等を実施。 ■府教育庁において府立高校に在籍する長期入院中の生徒への学業支援を実施。また、がん対策基金を活用し、入院中の小児・AYA世代のがん患者への学習活動支援や通信機器の活用による外部とのコミュニケーションを図るための環境整備費等に対し助成（3病院）。 <p>《妊よう性温存治療実施体制の充実》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■将来子どもを産み育てるなどを望む小児、思春期及び若年のがん患者等に対して、妊よう性温存治療及び温存後生殖補助医療に要する費用の一部を助成。 <ul style="list-style-type: none"> ・妊よう性温存治療費助成 令和6年度 27件 【R6.11末時点】 ・温存後生殖補助医療費助成 令和6年度 14件 【R6.11末時点】
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ■小児がん治療経験者長期フォローアップ支援事業の対象者への更なる周知啓発。
次年度の主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ■啓発資材の作成及び関係機関と連携した対象者への周知啓発の実施。
最終予算（案） (主要事業)	<p>小児がん治療経験者長期フォローアップ支援事業（5,919千円） 重粒子線がん治療患者支援事業（3,632千円）【再掲】 小児・AYA世代のがん患者支援事業（1,500千円） 大阪府がん患者等妊孕性温存治療費等助成事業（46,939千円）等</p>

3 患者支援の充実

- (1) がん患者の相談支援 計画 P 75
- (2) がん患者への情報提供 計画 P 76
- (3) がん患者等の社会的な課題への対策 計画 P 76-78

《第4期大阪府がん対策推進計画における個別目標及びモニタリング指標》

	個別目標	計画策定時の値	現状値	2029年度目標値
1	がん相談支援センターの認知度 【がん患者ニーズ調査】	90% 【令和4（2022）年度】	令和8年度に実施する患者ニーズ調査結果を受け算出	100%

	モニタリング指標	計画策定時の値	現状値
1	がん相談支援センターの相談件数 【がん診療拠点病院現況報告】	100,641件／67病院 【令和3（2021）年】	108,806件／66病院 【令和5（2023）年】
2	がん診療拠点病院におけるがん相談支援センターへの社会福祉士の配置割合 【がん診療拠点病院現況報告】	65病院／67病院 【令和4（2022）年 9月1日現在】	64病院／66病院 【令和6（2023）年 9月1日現在】
3	「大阪がん情報」へのアクセス件数 【大阪府調べ】	27,929件 【令和4（2022）年度】	43,932件 【令和5（2023）年度】

現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆がん診療拠点病院のがん相談支援センターの利用促進につながる取組みが必要。 ◆がんに関する情報があふれる中で、その地域において、がん患者や家族が確実に必要とする情報にアクセスできる環境整備が求められている。 ◆働く世代では、がん治療と仕事の両立など就労支援が求められている。 ◆高齢者世代においては、人生の最終段階における医療に係る意思決定支援などが必要となっている。 ◆アピアランスケアでは、医療現場におけるサポートの重要性が認識されている。
本年度の取組	<p>《がん患者の相談支援、情報提供》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■がん相談支援センター相談支援員向けの研修会（テーマ：就労支援）を実施。【参加者52人（R7.1.17実施）】 ■がん診療施設の設備整備に係る補助金において、がん相談支援センターの環境整備に要する費用を補助。（1病院） ■大阪府がん患者サポートセンターの開設。（令和6年7月16日） 【相談件数31件（R7.1末時点）】 <p>《全ての働く世代のがん患者の就労支援の推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■大阪国際がんセンター、大阪労働局、大阪産業保健総合支援センターと連携し、府内がん拠点病院の医療従事者を対象とした就労・両立支援に関する動画を作成。 <p>《アピアランスケアの充実》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■民間の理美容サービス機関と連携し、アピアランスケア等の普及啓発を目的としたイベントを開催。 <p>《がんのリハビリテーション提供体制の整備》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■国指定がん診療連携拠点病院を対象としたがんリハビリテーション実態調査を実施。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ■多様なニーズに対応できる相談体制充実、相談支援センターの利用促進、がんに関する情報発信の強化。 ■治療と仕事の両立支援に関する積極的な普及啓発。 ■アピアランスケアの支援体制の強化。 ■効果的・継続的ながんリハビリテーション提供体制の整備。
次年度の主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ■患者等のニーズを踏まえた相談員向け研修会を実施、がん相談支援センターの機能強化。 ■関係機関との連携し就労支援に関する啓発を実施。 ■府内アピアランスケアの支援拠点の一つとして、大阪府がん患者サポートセンターにおいても、ウィッグの展示やアピアランスケアに関するセミナーの等を実施 ■関係機関と連携したがんリハビリテーションの周知・啓発。
最終予算（案） (主要事業)	がん診療連携拠点病院機能強化事業（133,316千円）、地域統括相談支援センターモデル事業（12,825千円）、がん医療提供体制等充実強化事業（45,452千円）等

4 がん対策を社会全体で進める環境づくり

- | | |
|------------------------|---------|
| (1) 社会全体での機運づくり | 計画 P 81 |
| (2) 大阪府がん対策基金 | 計画 P 81 |
| (3) がん患者会等との連携推進 | 計画 P 82 |
| (4) がん教育、がんに関する知識の普及啓発 | 計画 P 82 |

《第4期大阪府がん対策推進計画におけるモニタリング指標》

	モニタリング指標	計画策定時の値	現状値
1	がん対策基金による企画提案型公募事業累積採択延べ件数 【大阪府調べ】	67件 【H30（2018）年度～R4（2022）年度】	75件 【H30（2018）年度～R6（2024）年度】
2	がん検診受診推進員認定数 【大阪府調べ】	9,241人 【令和5年（2023）3月】	12,673人 【令和6年（2024）3月】
3	患者会、患者支援団体及び患者サロンの数 【大阪府調べ】	患者会及び患者支援団体：36団体 【令和4（2022）年7月】 患者サロン：55病院 【令和4（2022）年7月】	患者会及び患者支援団体：37団体 【令和5（2023）年7月】 患者サロン：60病院 【令和5（2023）年7月】

現状・課題	<p>◆がん対策を社会全体で推進するためには、医療関係団体や医療保険者、患者会及び患者支援団体、企業、マスメディアなど、社会全体で、がん患者や家族への理解を深める普及啓発や支援体制の構築が必要。</p> <p>◆大阪府がん対策基金の効果的な活用や、がん患者団体等との連携を図る必要がある。</p>
-------	--

本年度の取組	<p>《社会全体でがん対策を進める機運醸成》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■がん診療連携協議会や医療関係団体、企業等と連携したオンラインセミナー等による府民への啓発を実施。 ■連携企業におけるがん検診受診推進員の養成及び推進員による啓発を実施。 <p>《大阪府がん対策基金》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■令和6年度寄附額5,645千円（R6.12時点）寄附総額100,980千円（H24～R6.12） ■寄附金を活用し、がん検診の普及啓発資材の作成、小児・AYA世代のがん患者支援事業や企画提案型公募事業等を実施。 <p>《がん患者会等との連携推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■患者会や患者サロンの情報について、地域の療養情報冊子及び別冊、ホームページを改訂し、府内の拠点病院等へ配布。 ■大阪府がんピア・サポーター養成研修を実施するとともに、大阪府がん診療拠点病院等のがんサロン等へ派遣するしくみを構築。 <p style="text-align: center;">【大阪府がんピア・サポーター養成研修 第1回：R6.11.16,17、第2回：R7.2.15,16実施】</p> <p>《がん教育、がんに関する知識の普及啓発》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■中学校、高校におけるがん教育の外部講師活用を進めるため、府教育庁と連携して講師リストを作成し、市町村教育委員会や府立高校へ配布するとともに、依頼に基づき外部講師を派遣。また、教員向けの研修会を教育庁と連携して実施。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ■社会全体でがん対策を進めていく更なる機運醸成 ■大阪府がんピア・サポーターを活用したがん患者・家族を支援するための体制構築
次年度の主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ■がん診療連携協議会や関係団体等と連携して啓発等を実施するとともに、がん検診受診推進員の養成に努めるなどにより社会全体の機運醸成を図る。 ■がん対策基金の寄附の拡大に努めるとともに、寄附等を活用して患者団体等の活動を支援。 ■大阪がん患者団体協議会及び関係者との継続的な意見交換を行い、がん対策の推進に努める。 ■大阪府がんピア・サポーターを大阪府がん診療拠点病院等で行われるがんサロン等に派遣。
最終予算（案） (主要事業)	がん検診普及事業（1,504千円）、地域統括相談支援センターモデル事業（12,825千円）【再掲】等